

福知山公立大学 新学部

教育研究方針

自らの進む方向を見つけ出して、選択、実行し、冷静に振り返ることで次のステップに持続的に発展させていくことのできる専門家を養成する。学んだことを現実の生活に結びつけて具体的に把握し、深化させていくことができること、技術だけでなく、モラルと経営に関わるセンスを併せ持ち、自らの努力だけでなく、仲間とのつながりを作り出して社会的な力にすることによって、未知のことにともに歩いていく力を身につける。研究では、いたずらに新規性ばかりを求めるのではなく、社会—特に地域社会—への貢献につながる情報学の実践面を重視する。実践面を単なる基礎の応用と捉えず、経験を汎化することで、知の広さと深さをめざし、基礎への問題提起と仮説提示を行う。専門家だけではなく、広い範囲のステークホルダーに対して、専門の壁を越えて越境する提言、批判ができるだけのコミュニケーション力を醸成する。教育研究では、教員から学生への一方的な情報の流れにとどまることなく、ともに積極的に参加し、学術の共有と実践に貢献することを目指す。

このために、以下の方針で臨む。

1. 帰納的学習

学術を地に足のついたものとして実践するため、具体的な事例から出発し、そこから段階的に原理に近づいていくことで専門性を高めていく、基礎的な概念が実世界においてどのような意味を持つのかを学習者自らがイメージできるようにして、経験に即した学術的知識の意味づけを常に行う努力をする。

経験で得られたことを汎化して、まだ遭遇したことのない事例に対するソリューション力を高める。また、専門的知識の学習意欲とフォーカスを定められるようにする。

2. システム化学習

技術だけにとどまらず、経営的センスを身につけて、着想をシステム化し、ビジョンとして社会に提示し、社会の意見を取り入れつつ社会実装する力を身につける。ビジョンのプレゼンテーション、効果の予測、技術評価、ビジネスモデルとしての定式化、未知の事柄へのリスク評価、多様なステークホルダーの認識とアカウンタビリティ、倫理的側面への配慮も含める。

3. テクノロジーによる人間力と社会力の醸成

未来の地域社会のなかで自分にふさわしいチャレンジングな目標を見出し、その達成を

粘り強く続け、自分に不利な事柄であっても必要があれば率先して実行し、たとえ失敗してもそこから回復し、自分を励ましたり、他者をいたわったりしながらレジリエントに生きる人間力と、そのなかで参加者同士が自然にコミュニケーションを重ねて協調したり、競い合いながら学習し、専門性を高めていくバランスの取れた風土を持つ社会力を情報通信技術を活用して醸成する教育研究環境の実現を目指す。

4. プレイフルな学習と研究

ゲーミフィケーションやエンタテインメントの要素を十分に取り込んで、多くの人を巻き込んで成功への道を探る試行錯誤のプロセスを持続的で発展的なものにしてイノベーションにつながられるようにするために必要な、楽しく遊び心に満ちた情報生活環境を情報通信技術によって実現するためのスキルを修得する。

5. 情報通信技術によって地域社会の福祉に貢献する

地域の歴史と現状に関わる豊かな知識と深い理解を有することで、情報通信技術が地域社会への貢献に結びつける手法を学習する。地域の生活と産業を分析して、地域の福祉に貢献できる情報通信システムのデザイン・実装・評価を繰り返すために必要な手法の学習を行う。失敗から学ぶ力を身につける。